仕　様

	LK-2	LK-3
フレーム材質	アルミ合金（A7003）	アルミ合金（A7003）
シート材質	背・座インナー：ナイロン **＃54の場合** ・背アウター：ナイロン、発泡ウレタン ・座アウターシート：ナイロン、発泡ウレタン ・レッグサポート：ナイロン **S7W4の場合** ・背アウター：塩化ビニル、ポリエステル、発泡ウレタン ・座アウターシート：塩化ビニル、発泡ウレタン ・レッグサポート：塩化ビニル	背・座インナー：ナイロン **＃54の場合** ・背アウター：ナイロン、発泡ウレタン ・座アウターシート：ナイロン、発泡ウレタン ・レッグサポート：ナイロン **S7W4の場合** ・背アウター：塩化ビニル、ポリエステル、発泡ウレタン ・座アウターシート：塩化ビニル、発泡ウレタン ・レッグサポート：塩化ビニル
アームサポート	ウレタン	ウレタン
サイドガード	樹脂	樹脂
グリップ	エンボスグリップ	エンボスグリップ
バックサポート	テンション	テンション
背折れ	あり、レバー式	あり、レバー式
フット・レッグサポートタイプ	開き式（スイングアウト）	開き式（スイングアウト）
フットサポート	軽量ステップ　黒	軽量ステップ　黒
キャスタ	6”（黒）ソフトフォーミング	6”（黒）ソフトフォーミング
タイヤ	ハイポリマータイヤ	エアータイヤ
制動用ブレーキ	あり	あり
ハンドリム	プラスチックハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	引き式タッグル	引き式タッグル、足踏みブレーキ

単位mm

	LK-2	LK-3
全長	990（1220）※1	1005
全幅	630	520
全高	900	865/890 ※5/915
シート幅	400	400 ※4
前座高	455	430/455 ※5/480
後座高	430	405/430 ※5/455
シート奥行	400	400
バックサポート高	415	400
駆動輪（主輪）径	22×1（in）	14（in）
キャスタ径	6（in）	6（in）
アームサポート高	240	215
フットパイプ長 ※2	350±20	350±20
全幅（折りたたみ時）	385	250
全長（折りたたみ時）	990（750）※3	892（652）※3
全高（折りたたみ時）	780	670/695 ※5/720
重量	20.5（kg）	15（kg）
耐荷重（最大耐荷重）	100kg（積載物を含む）	100kg（積載物を含む）

※1　（　）内駆動輪移動時
※2　シート先端からフットサポートまでの長さ
※3　（　）はフット・レッグサポートを取り外した寸法です。
※4　アームサポートフレーム内々の寸法です。
※5　出荷時の寸法です。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元

Wheel Chair MiKi

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号

1301-004

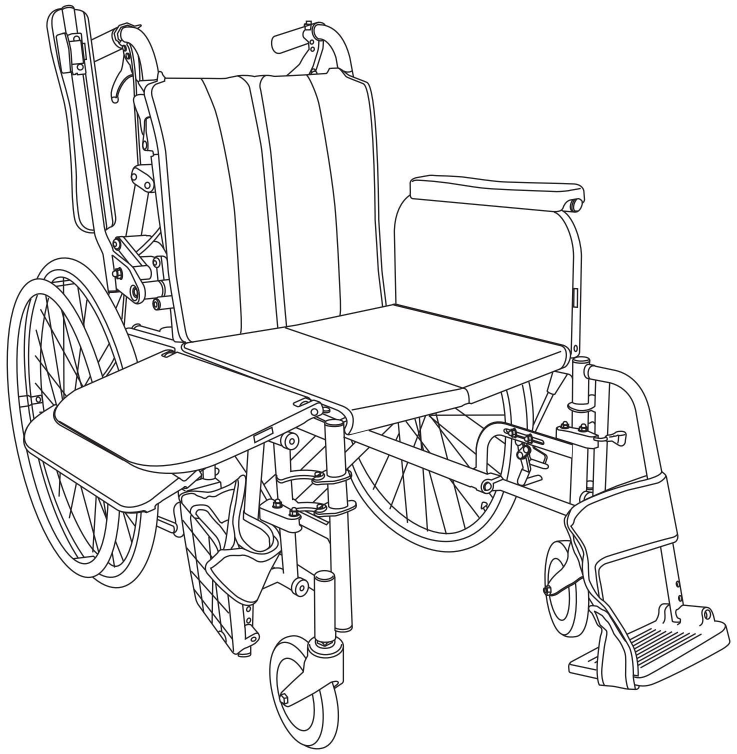
横乗り車いす／ラクーネ2／ラクーネ3　LK-2／LK-3

取 扱 説 明 書

より快適に車いすをお使いいただくために

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。
本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。



目　次

はじめにご確認ください ········ 2
使用目的 ······················ 2
特　徴 ························ 2
安全上のご注意 ················ 2
各部のなまえ ·················· 7
使いかた ······················ 8
　ブレーキのかけかた ············ 8
　車いすの開きかた / たたみかた ············ 9
　シートの取り付け / 取り外し ············ 10
　アームサポートの跳ね上げ ············ 12
　フット・レッグサポートの開閉・取り外し ··· 13
　アームサポートを上げた場合の乗り移り ··· 14
　その他の乗り移り ············ 16
各部の調節のしかた ············ 17
使用上のご注意 ················ 21
困った時には ·················· 23
アフターサービス ·············· 23
保　証 ························ 23
仕　様 ························ 裏表紙

⚠警告

本機は磁石を使用しています。高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、電子機器に誤作動などの影響を与える場合があります。

※ご注意いただきたい電子機器の例
補聴器･植込み型心臓ペースメーカ･植込み型除細動器･自動ドア･その他の自動制御機器など

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

本書は、ラクーネシリーズ（LK-2、LK-3）共通の取扱説明書になります。
本書では、機種ごとに装備が異なる項目には、該当機種を記載しております。
該当機種を確認いただき、ご自分の車いすに関係する項目をお読みください。

はじめにご確認ください

本製品ご購入後に、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- 車いす本体　*1ケ
- 背アウターシート（フラップ含）　*1ケ
- 座アウターシート　*1ケ
- レッグサポート　*左右各1ケ
- 取扱説明書（本書）
- 保証書
- 工具（スパナー2ケ　六角レンチ5㎜・4㎜・3㎜各1ケ）

ご使用前の準備は、下記のページをお読みください。

- P9　車いすの開きかた
- P10　シートの取り付け

使用目的

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。

LK-2 は、手動式の自走用標準形車いすです。（LK-3 は、介助者が操作をする介助用標準形車いすです。）日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

車いすの機能はそのままで、車いすからベッド等への移乗の際に、側面が開放されトランスファーボードが車いすとベッド等への橋渡しになるため、介助者や利用者の労力を軽減します。

特　徴

- アームサポートを引き上げるだけで駆動輪が後ろに移動し LK-2のみ 、側面が開放されますから、横からの乗り降りができます。
- 駆動輪が後ろに移動すると、駆動輪がロックされます LK-2のみ 。
- 足踏みブレーキにより、駐車時の介助者の腰への負担が軽減されます LK-3のみ 。
- 使用されるベッドの高さに合わせて座面の高さを調節し、移乗をよりスムーズにすることができます LK-3のみ 。
- 側面の開放は左右どちらからでもできますから、乗り降りの方向を選びません。
- 側面の開放により、利用者お一人での移動はもちろん、介助者も大変楽になります。
- トランスファーボードが車いすとベッドとの橋渡しをしてくれるため、安心して横への移動ができます。
- フット・レッグサポートフレームの取り外しができますから、ベッドへの正面からの移動ができます。また、移乗の際に邪魔になりません。
- 使用しない時は折りたたむことができます。フット・レッグサポートの取り外しをすれば、さらにコンパクトになります。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

⚠	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
🛇	禁止の行為であることを告げるものです。
❗	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠危険

スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

自走型であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。

急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。

主輪とキャスタは、それぞれ座面の高さに対応する位置に取り付けてください。
主輪とキャスタの取り付け高さを誤ると、腰掛けた場合に転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。LK-3のみ

⚠警告

乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
駆動輪（主輪）が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げ、LK-2 は跳ね上げた側の駆動輪が固定されていることを確認してください。
使用者の転倒、落下等の事故やけがにつながる恐れがあります。

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

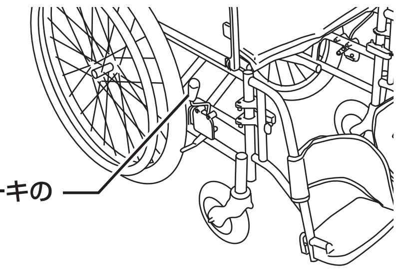
アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないください。
使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠警告

乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



走行中にアームロックレバーを解除しないでください。

タイヤの空気圧低下に注意し、必要な場合は補充してください。
タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。
LK-3のみ

使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

アームサポートやフット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

乗り降りは、必ず平坦なところで行ってください。

座面の高さの調節は、販売店へご依頼ください。 **LK-3のみ**

前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方へ転倒する恐れがあります。

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

車いすからベッド、またはベッドから車いすへ移乗をする際は、車いすをベッド側面にできるだけ寄せて、トランスファーボードとベッドマットとの重なりを多く（延長部を含めたトランスファーボード先端より10cm以上。ボード内側に添付された黄色のシールを目安にしてください。）とるようにしてください。

アームサポートの跳ね上げ、下ろし操作を行なう際は、アームサポートパイプ・駆動輪（主輪）の可動部に身体・衣服等をはさまないように注意してください。

⚠警告

トランスファーボードを利用する場合、移乗時に、フットサポートに足を乗せたまま踏ん張らないでください。
転倒の恐れがあります。安全のため、フットサポートを外すか上げてから移乗してください。

トランスファーボードを利用する場合、マットレスがやわらか過ぎず、端座位が安定するものをご使用ください。
（エアマットレスの場合は空気を抜いて移乗してください。）

トランスファーボードを利用する場合、移乗時にトランスファーボードのたわみとベッドのクッションにより多少不安定になります。転落の危険性もありますので、移乗は慎重に行ってください。

⚠注意

この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。

最大体重（積載物も含む）は100㎏になります。体重制限を守って使用してください。

車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。

使用者が乗車中は、背折れの操作は絶対に行わないでください。
背折れのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。

背折れジョイント、アームサポート、フット・レッグサポートなどの可動部に指や身体をはさまないよう注意してください。

走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。

走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。

アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。
手をはさみ危険です。

使用する前に駆動輪（主輪）・キャスタ・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。

段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

⚠注意

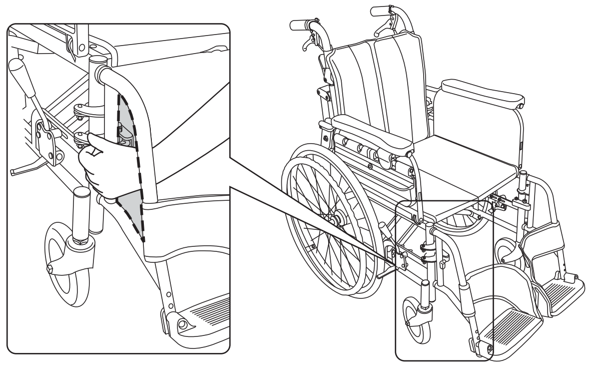
操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
けがをする恐れがあります。

フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

アームサポートを跳ね上げる際は、車いすの後方に人や障害物がないこと確認してください。

フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。
けがをする恐れがあります。



シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。

暖房器具にタイヤを近づけないでください。

タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。また、エアータイヤの場合、空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。

キャスタ・駆動輪（主輪）を他のサイズや種類に変更しないでください。

トランスファーボードを利用する場合、必ず衣類を着用してご使用ください。
直接皮膚が触れた状態でボード上を移動するとけがをする恐れがあります。

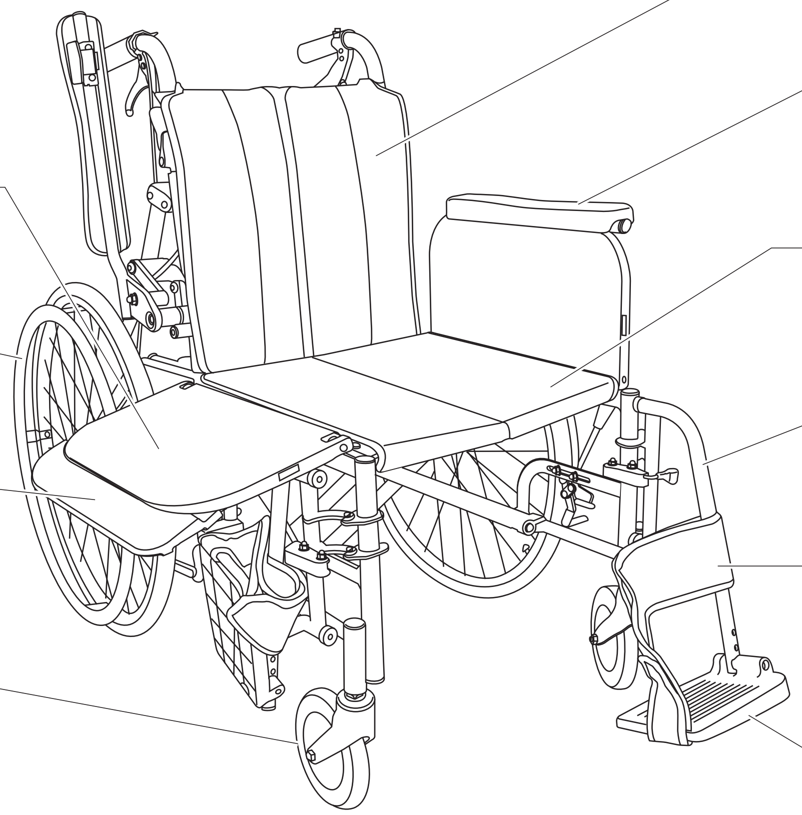
トランスファーボードを利用する場合、ベッドの高さ（マットレス含む）は、車いすの座面高（出荷時465㎜、LK-3は3段階の調整機能付）とできるだけ同じにしてください。

トランスファーボードを利用する場合、必ず延長部を起こして使用してください。

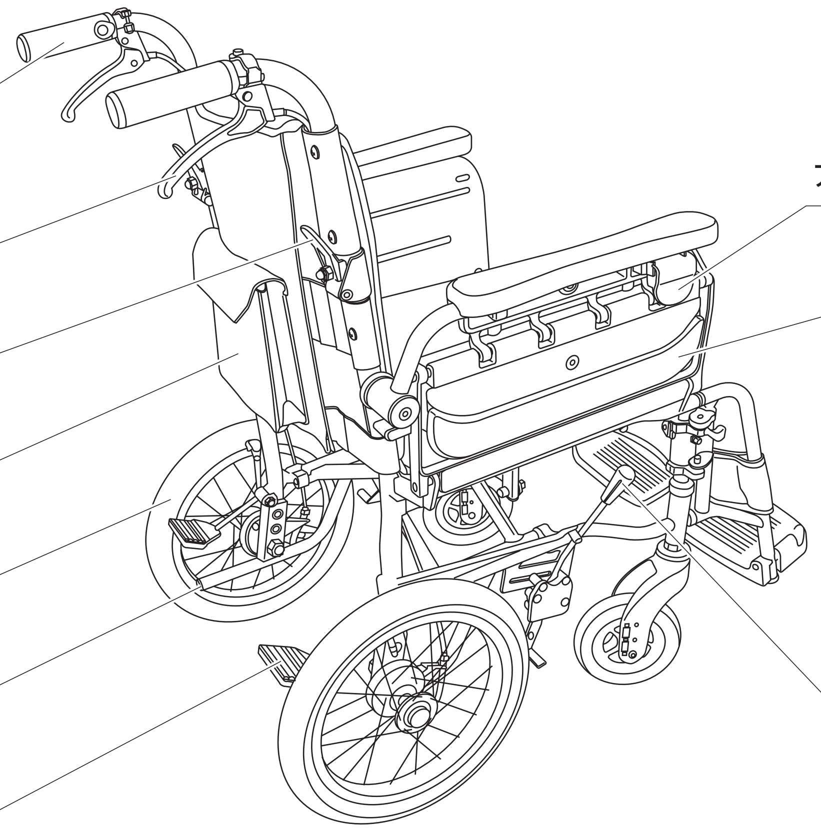
トランスファーボードの延長部を起こしたり、倒したりする際に、可動部で指等をはさまないよう注意してください。

各部のなまえ

前 側（図は LK-2）



後 側（図は LK-3）



使いかた

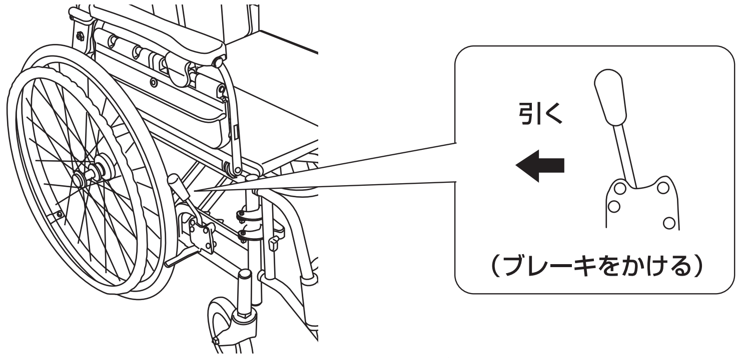
ブレーキのかけかた

⚠警告	・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかける、もしくは足踏みブレーキを踏んで **LK-3のみ** ください。 ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 ・乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 ・タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 ・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者もしくは介助者が、左右のブレーキレバーを手前に引いてかけます。

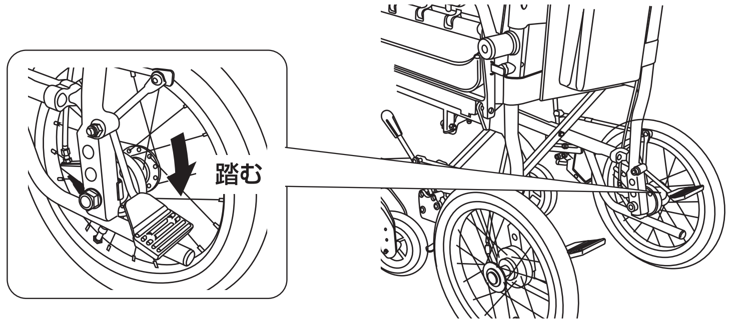
ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



● 足踏みブレーキの使いかた LK-3のみ

介助者が、左右の足踏みブレーキを踏み込みます。（駐車用ブレーキがかかります。）

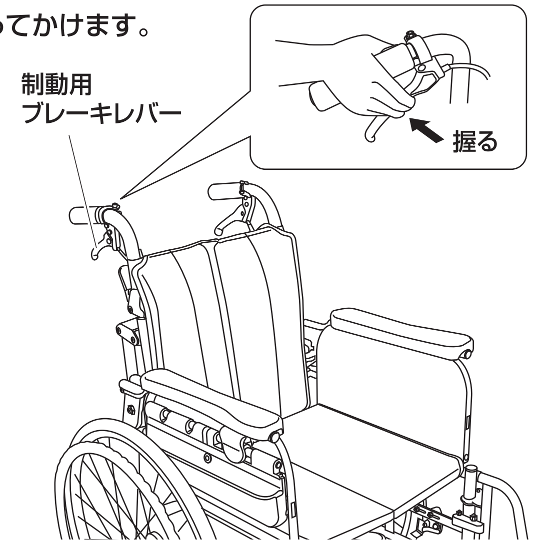
足踏みブレーキを足で持ち上げて元の位置に戻すと解除されます。



● 制動用ブレーキのかけかた

介助者が、左右の手押しハンドル下側の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。

ブレーキレバーを放すと解除されます。



⚠危険	・ スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。 また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

⚠警告	制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。 転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

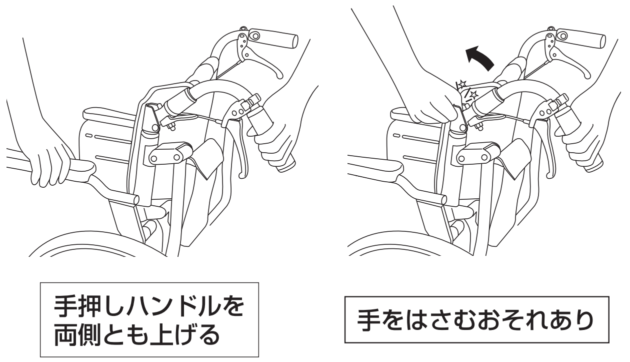
⚠注意	ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。 （交換の目安:1年に1度）

車いすの開きかた / たたみかた

⚠注意	・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。 ・必ず駐車用ブレーキをかける、もしくは足踏みブレーキを踏んで **LK-3のみ** 操作を行ってください。 ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。

● 開きかた

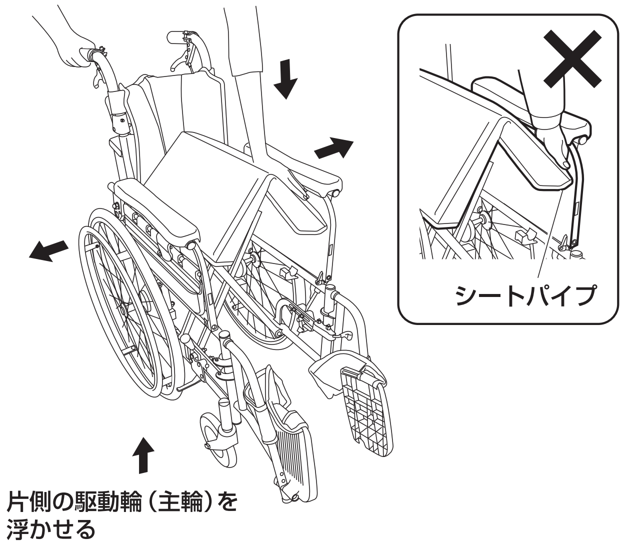
1 手押しハンドルを両側とも上げます。
＊開口部に手や指を近づけないでください。



2 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。

3 片側の駆動輪（主輪）を少し浮かせて、その状態を保ちます。

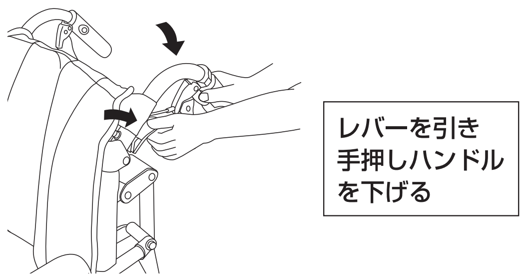
4 駆動輪（主輪）を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。
＊シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。



● たたみかた

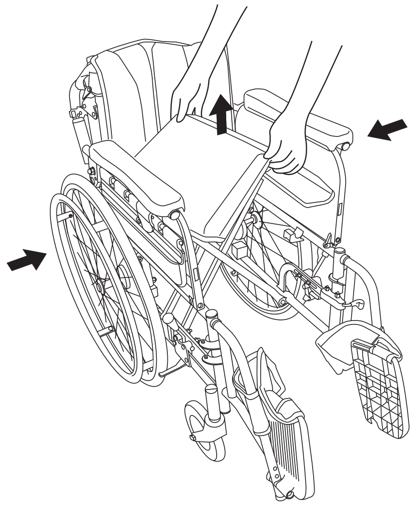
1 車いすの駐車用ブレーキを両輪にかける、もしくは足踏みブレーキを踏んで **LK-3のみ** おきます。

2 図のように、手押しハンドルを両側とも下げます。



3 フットサポートを両側とも上げます。

4 座シートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。



5 左右のアームサポートを外側から内側に押し、座シートを折りたたみます。

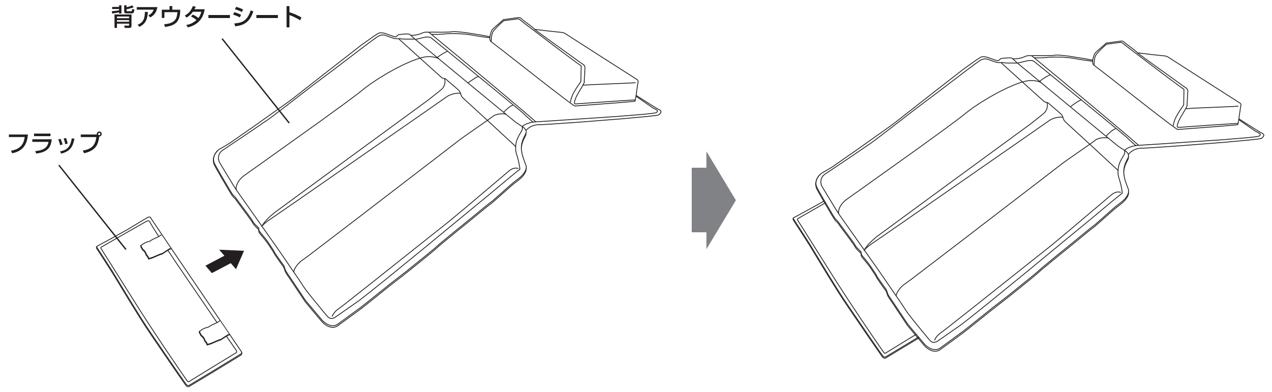
※背アウターシート、座アウターシートを取り外して折りたたむとより小さくたたむことができます。

シートの取り付け / 取り外し

⚠注意	・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかける、もしくは足踏みブレーキを踏んで **LK-3のみ** から行ってください。 ・使用者が乗車していない状態で作業してください。 ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

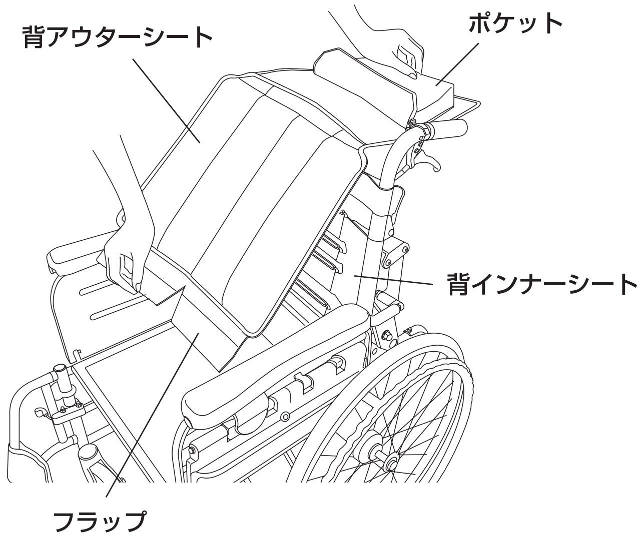
● 取り付け

1 フラップを背アウターシート裏面の面ファスナーに貼り合わせます。

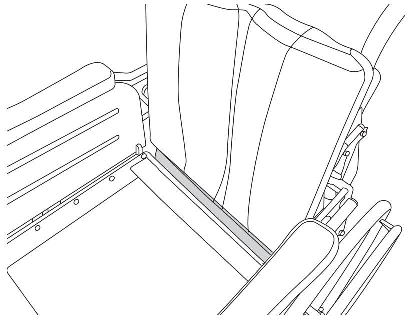


2 背アウターシートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせます。

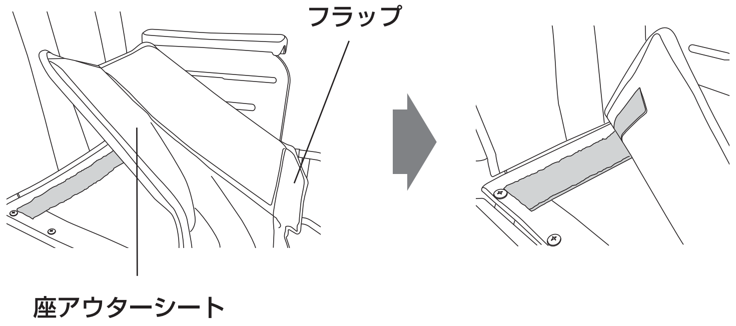
3 背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせます。



フラップを座インナーシートと背インナーシートの隙間にいれてください。

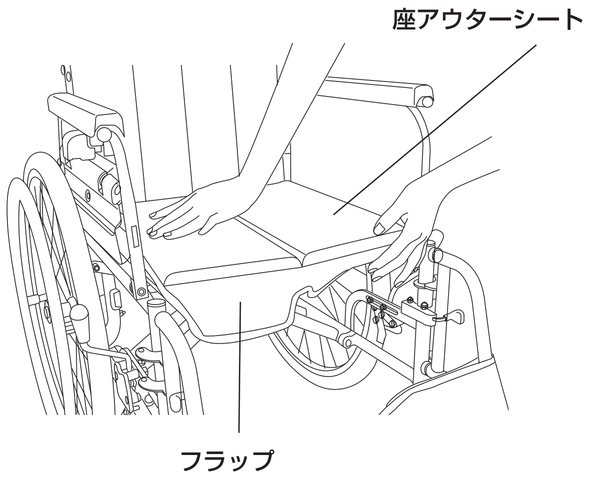


4 座アウターシートのフラップを前側にし、車いす本体の座インナーシート表面の面ファスナーと貼り合わせます。



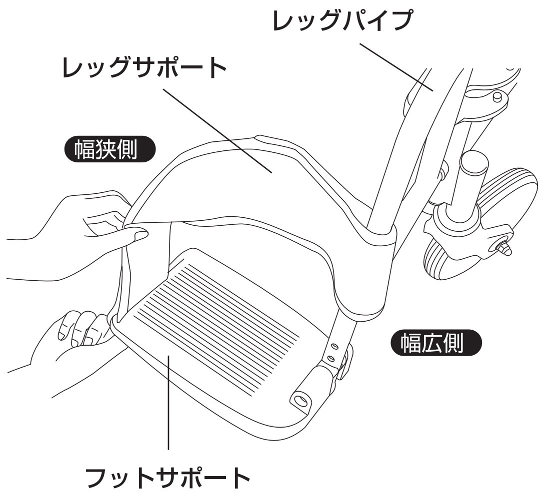
5 フラップ部を折り曲げ座インナーシート裏面の面ファスナーと貼り合わせます。

6 レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。



7 レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。

8 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせます。



9 反対側も同様の作業を行います。

● 取り外し

取り外しは逆の手順になります。

アームサポートの跳ね上げ

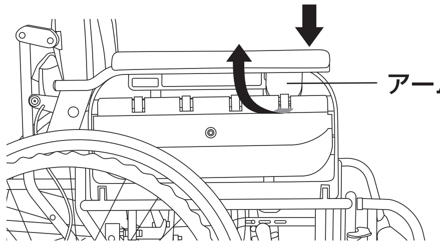
アームサポートを跳ね上げるだけで駆動輪が後ろに移動し **LK-2のみ** 、側面が開放されて横からの乗り降りができます。

⚠警告	・**アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。** ロックが外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。 ・**アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げ、跳ね上げた側の駆動輪が固定されていることを確認してください。** 使用者の転倒、落下等の事故やけがにつながる恐れがあります。 ・**アームサポートの跳ね上げ、下ろし操作を行なう際は、アームサポートパイプ・駆動輪の可動部に身体・衣服等をはさまないように注意してください。** ・**アームサポートを戻した後は、完全にロックされたことを確認してください。** 使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

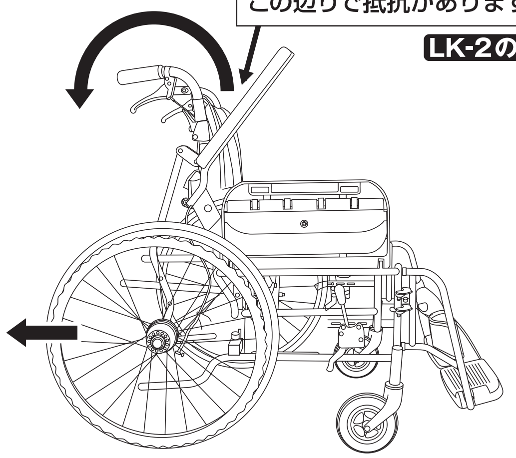
⚠注意	・アームサポートを跳ね上げる際は、車いすの後方に人や障害物がないこと確認してください。 ・アームサポートの跳ね上げ、下ろし操作を行なう際は、駆動輪などの可動部に衣服や身体が巻き込まれないように注意してください。 ・トランスファーボードを利用する場合、必ず延長部を起こして使用してください。 ・トランスファーボードの延長部を起こしたり、倒したりする際に、可動部で指等をはさまないよう注意してください。

● 跳ね上げかた

1 両側の駐車用ブレーキをかける、もしくは足踏みブレーキを踏み **LK-3のみ** ます。
（ブレーキのかけかた参照　P8）



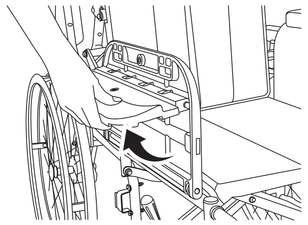
2 アームロックレバーを外側に引きます。
レバーが固く感じる場合は、アームサポート先端を下へ押さえながらレバーを引いてください。



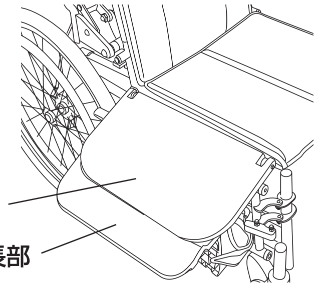
3 アームサポートを跳ね上げます。

LK-2のみ
アームサポートを跳ね上げると駆動輪が後方へさがります。
アームサポートの跳ね上げ操作途中で抵抗がかかりますが、その抵抗をさらに跳ね上げることでブレーキがかかります。
跳ね上げた側の駆動輪が固定されていることを確認してください。

4 延長部を起こします。



5 トランスファーボードを外側に倒してください。



戻しかたは逆の手順になります。

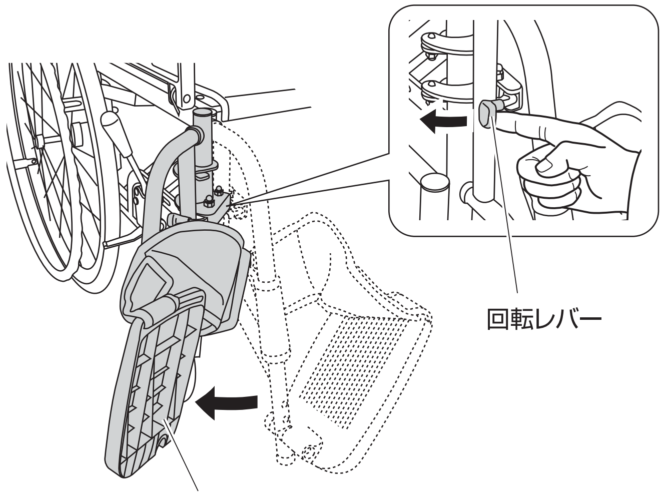
フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠警告	・**フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、 必ず両輪の駐車用ブレーキをかける、もしくは足踏みブレーキを踏んで LK-3のみ から行ってください。** ・**フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。** ロックが外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。 ・**開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。** けがをする恐れがあります。 ・**乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。** 転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのまま
フット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



● 閉じかた

⚠注意	フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。
閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

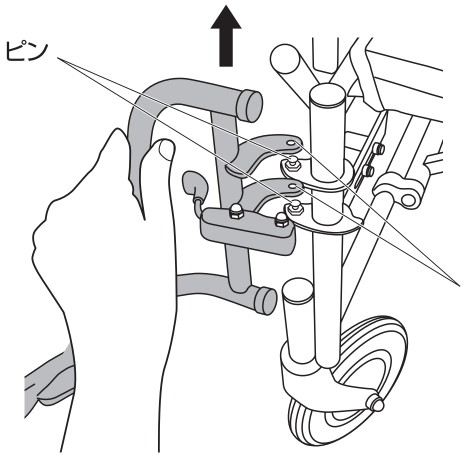
● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴（2箇所）を合わせてはめ込みます。
はめ込み後は内側へ回転させ、ロックします。
（閉じかた同様）

＊フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。



〈フック部拡大図〉

フット・レッグサポートを開く前にトランスファーボードを外側に倒しておくと、フット・レッグサポートがトランスファーボードに干渉し完全に開きません。

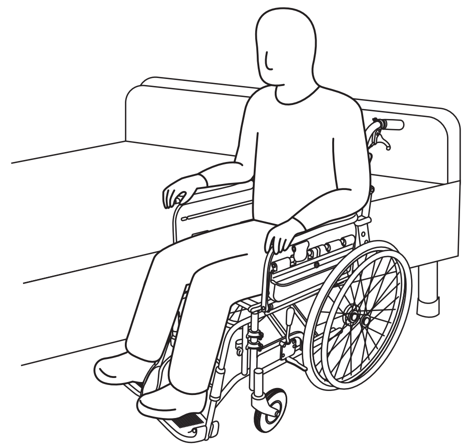
アームサポートを跳ね上げた場合の乗り移り

⚠警告	・車いすからベッド、またはベッドから車いすへ移乗をする際は、車いすをベッド側面にできるだけ寄せて、トランスファーボードとベッドマットとの重なりを多く **（延長部を含めたトランスファーボード先端より 10cm 以上。ボード内側に添付された黄色のシールを目安にしてください。）** とるようにしてください。 ・トランスファーボードを利用する場合、移乗時にトランスファーボードのたわみとベッドのクッションにより多少不安定になります。 転落の危険性もありますので、移乗は慎重に行ってください。 ・トランスファーボードを利用する場合、移乗時に、フットサポートに足を乗せたまま踏ん張らないでください。 転倒の恐れがあります。安全のため、フット・レッグサポートを外すかフットサポートを上げてから移乗してください。 ・トランスファーボードを利用する場合、マットレスがやわらか過ぎず、座ったときの姿勢が安定するものをご使用ください。 （エアマットレスの場合は空気を抜いて移乗してください。） ・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げ、跳ね上げた側の駆動輪（主輪）が固定されていることを確認してください。 使用者の転倒、落下等の事故やけがにつながる恐れがあります。

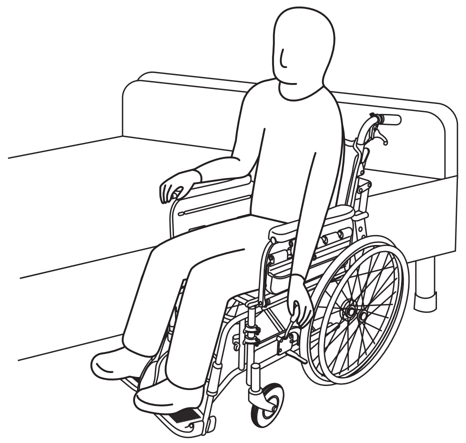
⚠注意	・トランスファーボードを利用する場合、ベッドの高さ（マットレス含む）は、車いすの座面高（出荷時465㎜、LK-3は３段階の調整機能付）とできるだけ同じにしてください。 ・トランスファーボードを利用する場合、必ず衣類を着用してご使用ください。 直接皮膚が触れた状態でボード上を移動するとけがをする恐れがあります。 ・ベッドがキャスタ付の場合、キャスタのロックが固定されており、ベッドが動かないことを確認してから移乗してください。 ・トランスファーボードを利用する場合、必ず延長部を起こして使用してください。 ・トランスファーボードの延長部を起こしたり、倒したりする際に、可動部で指等をはさまないよう注意してください。

● 車いすからベッドへの移りかた

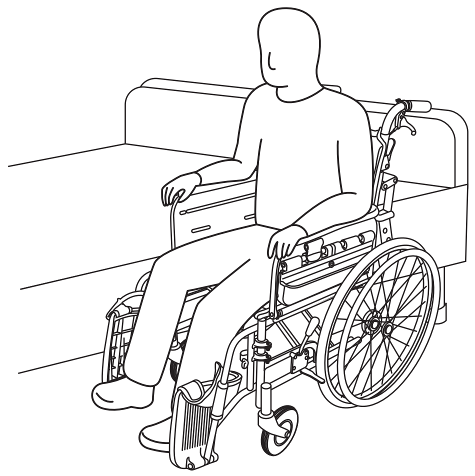
1 車いすとベッドを並行にならべます。
車いすとベッドの距離は、できるだけ近づけておいてください。



2 駐車用ブレーキのレバーを引く、もしくは足踏みブレーキを踏んで **LK-3のみ** 両輪のブレーキをかけます。
（ブレーキのかけかた　P8 参照）



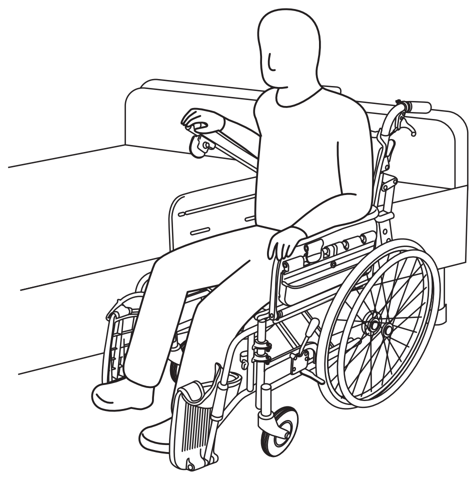
3 フットサポートを両側とも上げます。
ベッド側のフットレッグサポートを外すと足元のスペースがより確保され楽に移ることができます。
（フット・レッグサポートの開閉・取り外し　P13 参照）



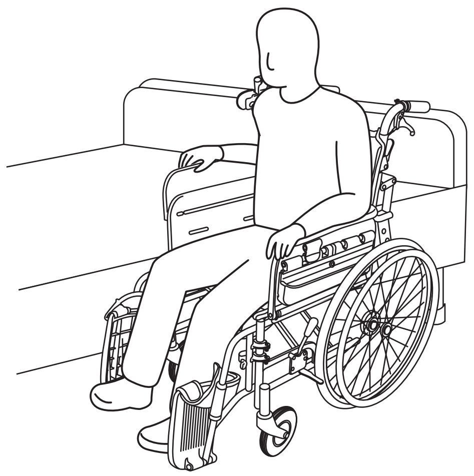
4 アームロックレバーのロックを解除します。

LK-2のみ
アームサポートを跳ね上げると徐々に駆動輪は後ろに下がります。
アームサポートを跳ね上げきると、後ろに移動した駆動輪にブレーキがかかります。

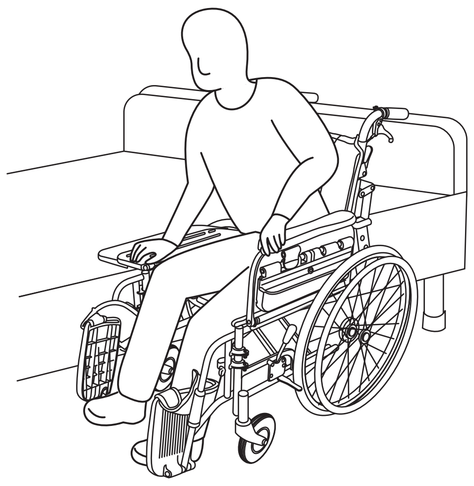
（アームサポートの跳ね上げ　P12 参照）



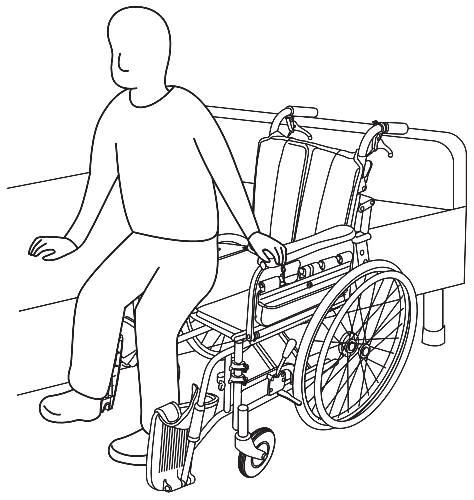
5 トランスファーボードの延長部を起こします。



6 トランスファーボードをベッドの上に倒します。
（アームサポートの跳ね上げ　P12 参照）



7 そのまま体をずらしていきます。



● ベッドから車いすへの移りかた

車いすからベッドへの移りかたと逆の手順になります。

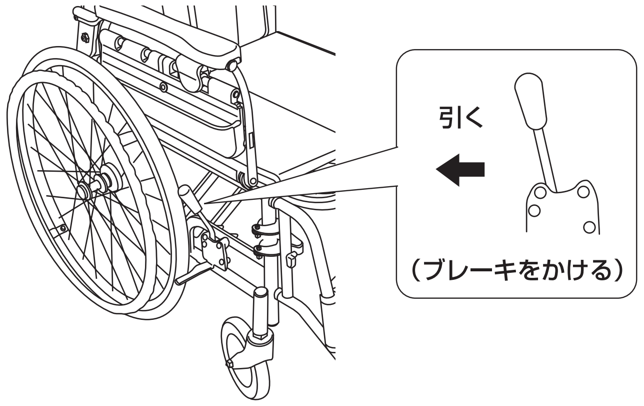
その他の乗り降り

以下の方法は一例です。利用者の症状・使用環境にあわせてご利用ください。

⚠警告	・乗り降りは、必ず平坦なところで行ってください。 ・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。 ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。 ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

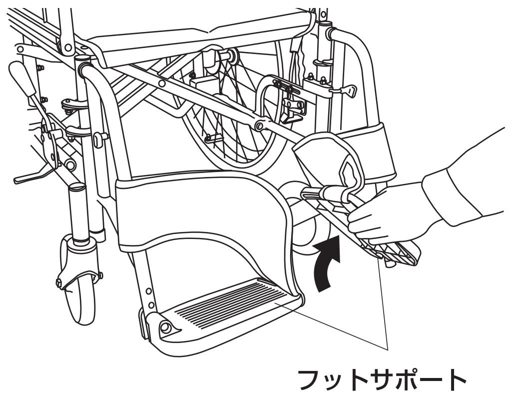
● 乗りかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引く、もしくは足踏みブレーキを踏んで **LK-3のみ** 両輪のブレーキをかけます。

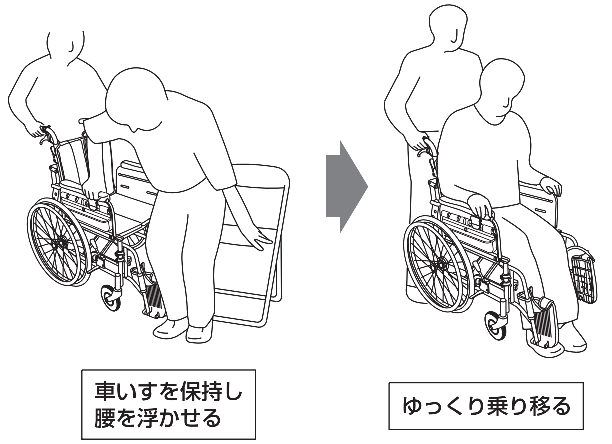


2 フットサポートを両側とも上げます。

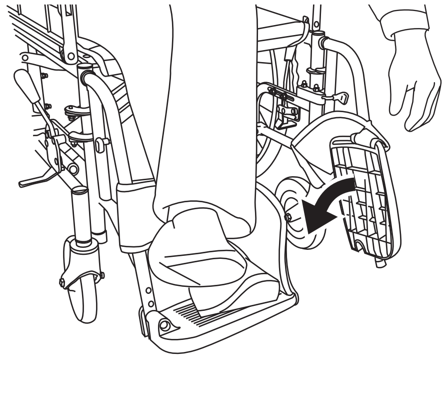
＊フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
＊上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



3 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



4 フットサポートを下ろして両足を乗せます。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行なってください。

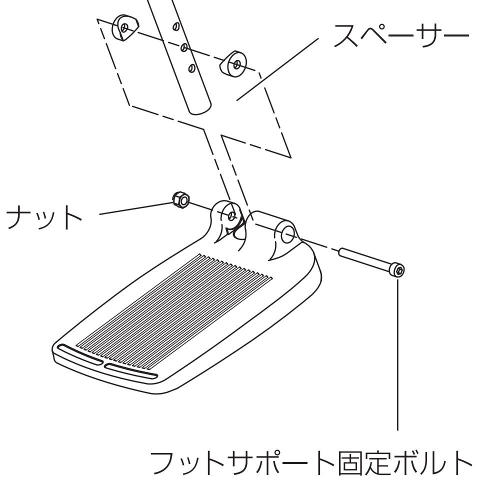
各部の調節のしかた

フットサポートの高さ調節

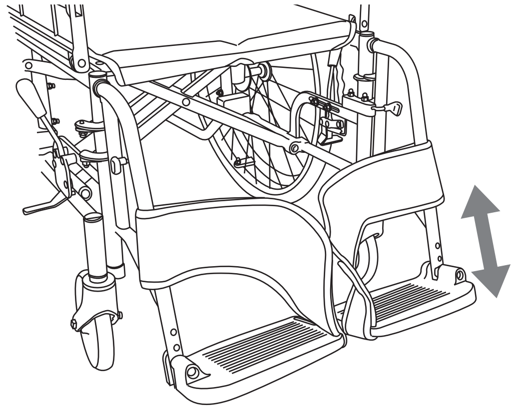
フットサポートは20mm 間隔で３段階の高さに調節することができます。

1 駐車用ブレーキレバーを引く、もしくは足踏みブレーキを踏んで **LK-3のみ** 両輪のブレーキをかけます。

2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。



3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



4 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

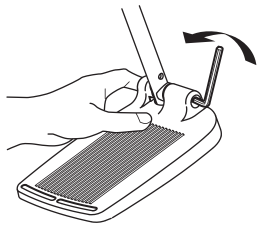
＊反対側も同様に作業を行ってください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出してきたら、ナットを指で押さえておきます。

⚠注意	ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。



2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

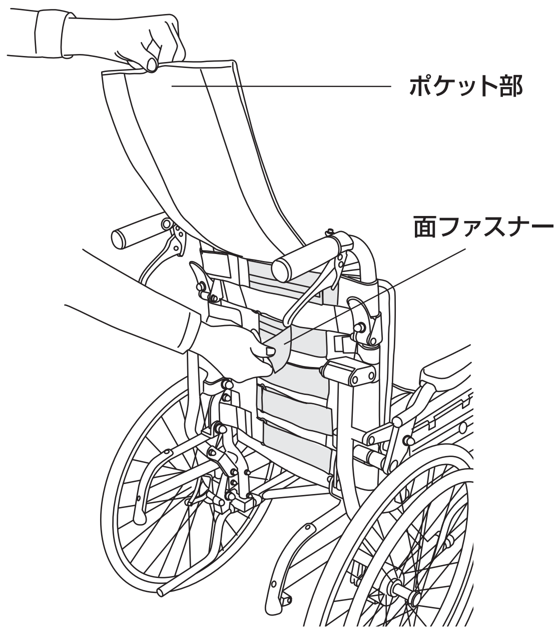
取り付けるとき

- ● フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- ● フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

バックサポートの張り具合調節

⚠注意	・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。 ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、充分に車いすが開かなくなり、フレームの変形の原因になります。

＊バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。



1 駐車用ブレーキレバーを引く、もしくは足踏みブレーキを踏んで **LK-3のみ** 両輪のブレーキをかけます。

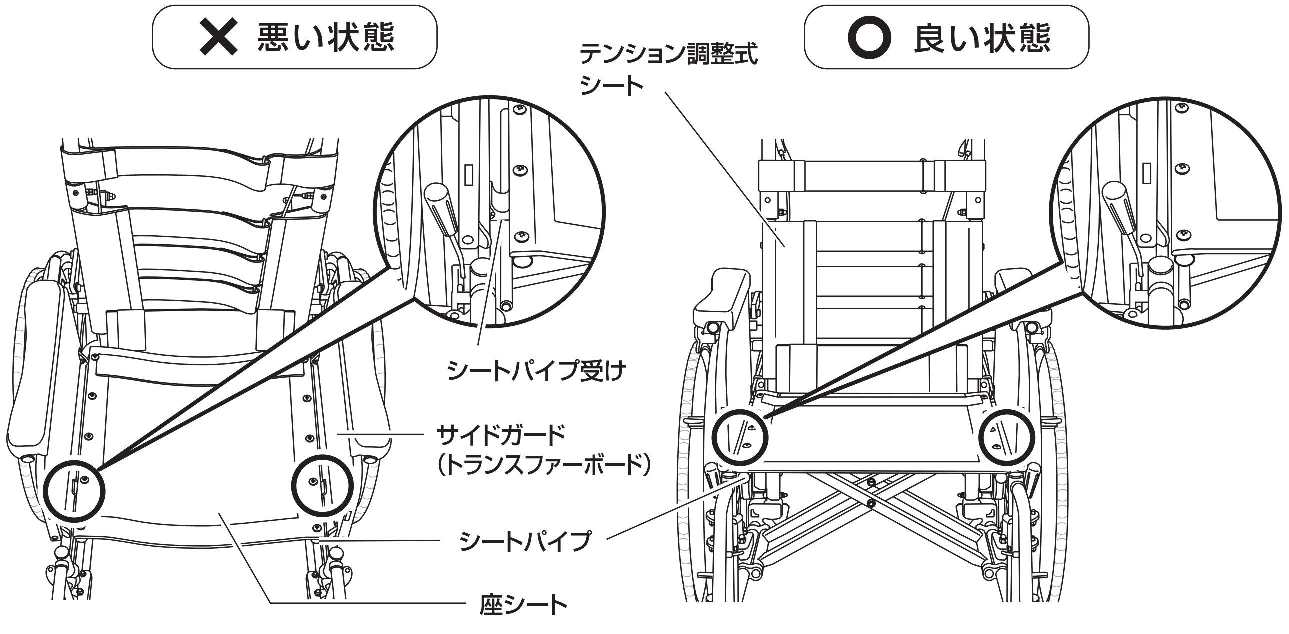
2 ポケット部をめくり上げます。

3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。

＊手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

4 ポケット部を元に戻します。

⚠注意	面ファスナーの張り具合を過度にゆるめますと、シートパイプ受けにシートパイプがしっかりとはまらなくなり、車いすの破損につながります。



上から見ると、座シートとサイドガードの間からシートパイプ受けが見えます。

上から見ても、座シートとサイドガードの間からシートパイプ受けは見えません。

座面の高さの調節 LK-3のみ

⚠警告	・座面の高さの調節は、販売店にご依頼ください。 ・必ず駐車用ブレーキをかける、もしくは足踏みブレーキを踏んでから、平坦な場所で行ってください。

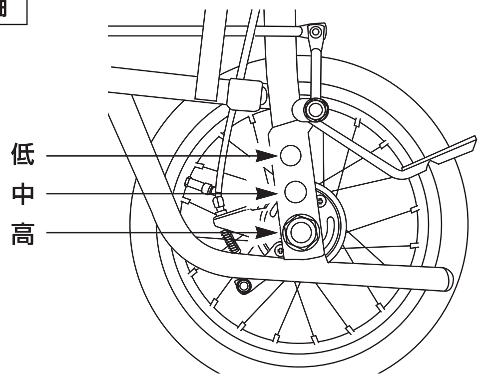
⚠危険	・主輪とキャスタは、必ず対応する高さ設定に調節してください。 ・主輪とキャスタの調節を誤ると、腰掛けた場合に転倒する恐れがあります。 ・使用者を乗せたまま調節を行うのは、絶対におやめください。

座面の高さを最大３段階（低・中・高）[25mm ピッチ］に調節することができます。
座面の高さの調節は主輪とキャスタの取り付け位置をそれぞれ対応する高さ（低･中または高）に調節することで行います。

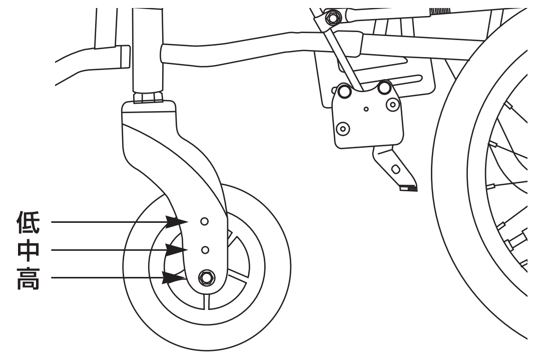
＊主輪とキャスタはそれぞれ左右同じ高さに調節してください。
＊座面の高さを変更したら、必ず駐車用ブレーキの取り付け位置もあわせて調節してください。

● 主輪とキャスタの調節範囲

主　輪



キャスタ

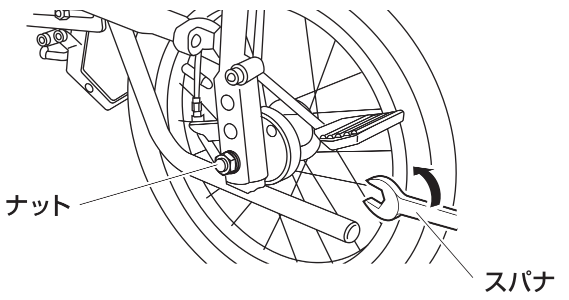


● 主輪の高さを変える

1 作業しない側の駐車用ブレーキのみかけます。

2 主輪の車軸内側のナットをスパナなどで回して外し、主輪を引き抜きます。

＊このとき制動用ブレーキも一緒に取り外します。



3 主輪を取り付ける穴を決め、主輪の車軸を制動用ブレーキ等に通し、本体フレームに差し込みます。

4 車軸内側にナット等を取り付け、しっかりと締め込みます。

締め付けトルク：20.0～24.0 N･m

5 主輪がガタつかず、しっかりと固定されていることを確認します。

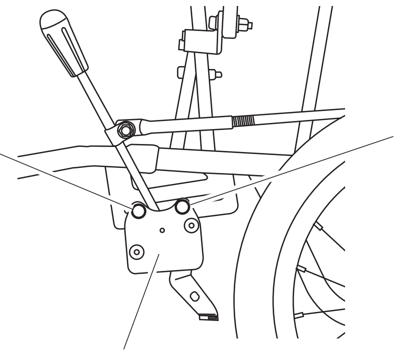
＊反対側も同じ高さに調節してください。

● 駐車用ブレーキの取付位置を調節する

＊座面の高さを調節すると、主輪と駐車用ブレーキ間の距離が変わります。必ず駐車用ブレーキの取付位置を調節してください。

＊ブレーキの効き具合を随時点検し、効きが悪い場合は、ブレーキの取付位置を調節してください。

1 駐車用ブレーキの内側のナット（2本）をレンチなどでゆるめます。



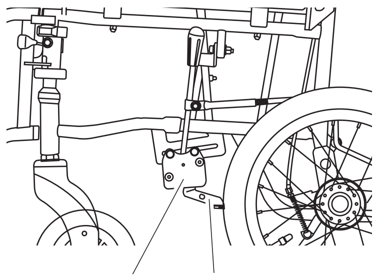
2 駐車用ブレーキをかけたときに、タイヤに駐車用ブレーキのタイヤ押えが当たり、主輪がしっかり止まる位置に調節します。

3 ナット（2本）を締め、駐車用ブレーキがガタつかずしっかり固定されていることを確認します。

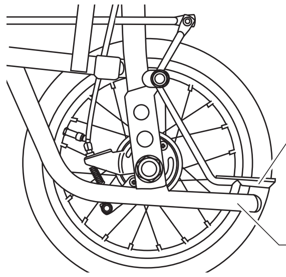
4 駐車用ブレーキをかけ、主輪がしっかり止まることを確認します。

＊主輪がしっかり止まらない場合、または駐車用ブレーキが効きすぎる場合は、再度調節してください。

＊反対側も同様に調節してください。



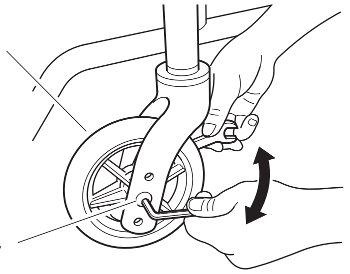
足踏みブレーキを踏んだ時にペダルとティッピングレバーとが接触しないように調整してください。接触していると、オプションの取付時に支障が生じたり、ブレーキがかかりきらないなどの恐れがあります。



● キャスタの高さを変える

1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪にブレーキをかけます。

2 キャスタ軸のナットをスパナなどで回して外し、ボルトを抜きます。



3 前ページ「主輪とキャスタの調節範囲」に従って、主輪と同じ高さ設定になる取り付け穴にボルトを進行方向に対し右側から差し込み、しっかりとナットを締め込みます。

締め付けトルク：3.0〜3.5 N・m

4 キャスタがしっかり固定されていることを確認します。またキャスタがスムーズに回転することを確認します。

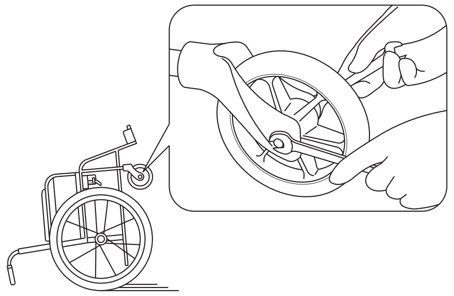
＊反対側も同じ高さに調節してください。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

＊ 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠警告	キャスタ・駆動輪（主輪）・駐車用ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。

・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。

・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品　名	交　換　時　期
駆動輪（主輪）	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスタ	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
各シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。
トランスファーボード	キズや割れがみられたとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
・水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
・錆を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● シートのお手入れ

・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

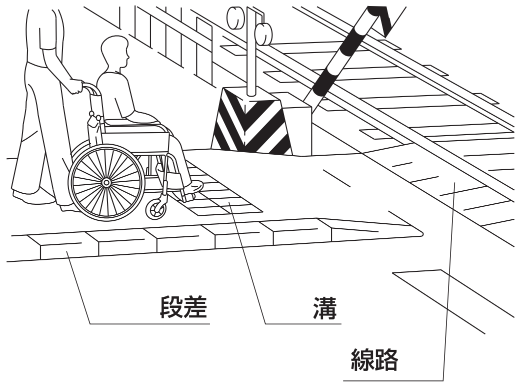
⚠注意	シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

● 保管・収納について

・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
・錆を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

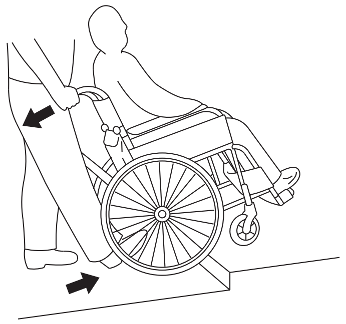
走行上のご注意

- 車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャスタのはさみ込みには充分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



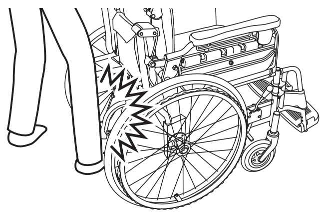
段の上がりかた

1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスタを段の上に上げます。



2 駆動輪（主輪）を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

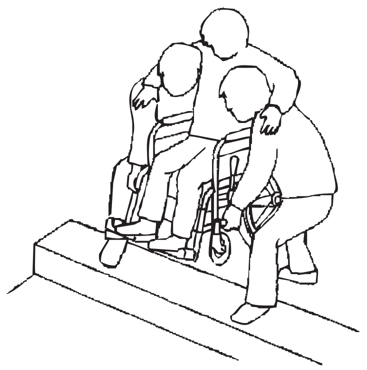
＊無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

⚠注意	ティッピングレバーを操作する足を駆動輪スライドパイプにぶつけないようにご注意ください。**LK-2のみ** 

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

⚠警告	持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げます。



段の下りかた

手押しハンドルとティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

＊無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。

＊段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症　状	確　認　点	対　処
車いすが まっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へキャスタが流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 **〈自走の場合〉** 傾斜面の低い側に当たる駆動輪（主輪）をより強く回してください。 **〈介助者が押す場合〉** 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャスタの回転に左右差がありませんか。 キャスタ軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	キャスタ・駆動輪（主輪）の計４輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪（主輪）のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪（主輪）にきちんと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音がする。	本体や駆動輪（主輪）とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪（主輪）など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆・摩耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩耗音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。

アフターサービス

- 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保　証

- 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- 保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
  修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。